

## 国際地域イノベーター人材養成プログラム 科目概要

## ⑦ 地域づくり支援実習

地域政策ボランティア実習Ⅰ（国内）を含む

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター  
センター長 齋藤 征人

## 【1】実習の概要

地域づくり支援実習は、学生が観光や教育等に課題を抱える地域に一定期間（原則として10日間以上かつ90時間以上）滞在して、それらに関する就業体験を行うことによって、当該地域の振興に必要な実践的能力を育成する地域滞在型インターンシップです。当該科目は3年生以上を対象としており、1～2年生が実習を強く希望した場合には、同様の地域において、地域政策ボランティア実習Ⅰ（国内）としての履修を認めています。

2022年度は、以下のテーマのもと道内7地域で実習が行われました。（木古内町の実習はP26・3章「地域のニーズにこたえて」⑦、函館市南茅部地区の実習はP15・3章「函館ソーシャルクリニック」にも詳述）

	テーマ	地域	コーディネート団体	実習生
①	地域と子ども ～震災後の子どもたちとの交流と農業体験～	厚真町	厚真町教育委員会 NPO法人ezorock	4名
②	行政による地域振興 ～移住・定住を切り口とした実施予定事業への企画立案～	森町	森町企画振興課	4名
③	民間による地域振興 ～廃校跡施設のリノベーションプロジェクト～	八雲町	株式会社木蓮	5名
④	第1次産業による地域振興 ～農業インターンシップと中学校との交流～	厚沢部町	厚沢部町農楽会	6名
⑤	完全密着！地域おこし協力隊 ～木古内町の魅力・課題を探る～	木古内町	木古内町産業経済課	2名
⑥	住民主体の地域づくりを考える ～生活支援コーディネーターの実際～	松前町	松前町社会福祉協議会	4名
⑦	漁業と世界遺産を活用した地域振興 ～漁業体験や飲食店・宿泊施設等での就業体験～	函館市	函館市南茅部支所地域振興課	3名

## 【2】実習生と実習担当者の声

2022年度に受け入れをお願いした7カ所の実習先のうち、木古内町と松前町それぞれの実習生の声と、実習担当者のコメントをご紹介します。

## 〈1〉木古内町

## ■実習生の声 ————— 地域政策グループ3年 下妻 滉

まず木古内町の事を知るため、役場の方と木古内町を回りました。実際に観光客のような観光を行ったため非常に楽しく体験することができたと感じています。また、実習が2期に分かれていたということもあり、前半で体験したことを後半の最終日に行われた町長への提案・報告会での発表にとっても活かすことができました。

自分自身が自然豊かな土地に訪れる機会があまりなかったため、考えたことがないようなことも新たに考える良い機

会になりました。また、行政の観点でどのように動き、どのように町民を支え、どのように町を広げていくかということ

を学ぶことができました。「民間企業の観光」についてはインターンや企業情報で体験したり学んだりしていましたが、今回経験した「行政という観点からの観光」は、僕にとっては考えたこともないような公平性を非常に重んじるものだったので新たな発見ができました。

■実習担当者のコメント ————— 実習担当 長原 汐里 氏

木古内町は、学生を受け入れる事業自体が初めての試みで、至らぬ部分がある中の実習だったと思いますが、来てくださった学生たちは真剣にしっかりと町について考えてくれました。町を見て感じることで見えてきた課題や企画案を、最終日は成果報告会として、町長へ提案しました。

町として求めている、外からの目線、新しく若い意見を数多く頂戴することができました。今後の政策につながるヒントを得ることができました。ありがとうございました。

〈2〉松前町

■実習生の声 ————— 地域政策グループ2年 川浪 結衣

私は今まで初対面の人や大勢の人などと話すのが苦手と避けていたが、実習のなかでサロンや座談会、元気づくり会、アンケート調査などを行い、たくさんの人と話す機会を得たことで、多くの人は話しかけると快く会話してくれることがわかった。

また、地域の問題や自分に関係のないことには無関心だったが、実習で多くの方と関わり、みなさんが地域をよくするためにいろいろと考えていたり、地域同士のつながりを大事にしていたりなど、自分に関係のないことでも人のために考えることがとても大切だとわかった。

現在ゼミの活動で、東部地域の方々と、地域公共交通計画についてのワークショップを行っているが、実習で地域での困りごとについてのアンケート調査や、ワークショップ等の体験をしていたので、グループでの話し合いでもそれほど緊張せず、積極的に話題を振れるようになった。実習での経験はとて自分のためになったと感じる。

■実習担当者のコメント ————— 実習担当 松橋 祐二 氏・斉藤 真由美 氏

松前町で初めての「地域づくり支援学習」では、他町での体験型学習とは内容が異なっていたため、応募がないのでは…という心配がありました。4名の参加があり嬉しく思っています。

皆さんが訪問した高齢者の方々からは、「若い人と話ができて嬉しかった」「また来てほしい」等、多くの言葉をいただいています。アンケート調査からみえた結果に対しての提案を頂きましたので、2層協議体委員会で、これからの活動に活かしていきます。

参加された4名の皆さんには感謝し、お礼申し上げます。

令和4年9月1日 函館新聞 2面

**地域福祉の仕事体験**  
函教大生、松前で実習

「松前」道教育大函館校の学生4人が、8月19日から地域づくり支援実習の一環で町内に滞在し、町社会福祉協議会の就業体験をしている。

同実習は町の基幹産業や役場のまちづくりに関する仕事を体験し、地域振興に

必要な能力を育成する滞在型の実習プログラム。今年度は胆振管内厚真町や八雲町など7カ所を実施し、松前町は今回初めて学生を受け入れた。

4人は石川風沙さん(2年)、川浪結衣さん(同)、岡村留奈さん(1年)、宮野いた。

野村さん(右端)の話を聞く学生

くみさん(同)は、9月1日まで町交流里(旧)の(仮)口)で自炊生活しながら就業、主に社協が実施する高齢者世帯の訪問活動を体験し、困りごとや地域の現状などを聞き取りしている。

25日は、豊福町内会副会長の野村誠さんと懇談し、町内会のボランティア活動や行事について説明を受けた。野村さんは「社会人になって仕事に就いても地域のことを考えてほしい」と呼び掛けた。

学生たちは「各地域を訪問して住民同士のつながりが強く、自発的な支え合いが根付いていると感心した。期間中、地域の人たちと交流しながら学びを深めていきたい」と話していた。(鈴木 潤)



厚真町での実習風景



八雲町での実習風景



厚沢部町での実習風景



令和4年9月2日 北海道新聞14面

森町内で長期インターンシップを行った成果を発表する道教大函館校の菊地なな子さん

## 森町に活気を 函教大生提案

### 「はじき野菜」まつりで格安販売 空き店舗周辺にキッチンカー

【森】町内に12日間滞在しながら長期インターンシップ（就業体験）を行った道教大函館校の学生4人の発表会が、町役場で開かれた。見た目などの問題から出荷されない「はじき野菜」の格安販売や商店街の活性化策などを提言。若者の感性で練られた光るアイデアや「プレゼン力」に町幹部らは感心し、実現に意欲を見せた。  
（高尾晋）

#### 町内長期滞在し就業体験

町と同大は2020年9月に「雇用創出支援に関する協定」を締結し、学生が町内に滞在しながら地域について学ぶ「森町地域づくり支援実習」を行っている。3年目の今年は2年生3人、3年生1人が8月15日から26日まで滞在し、農業体験や道南入ぎを使った木工品開発のほか、町内の農業、漁業、商業の各団体が特産品を販売する「三葉まつり」に参加した。同26日に行われた発表会では、菅沼澄花さん（20 〓市出身）が町内産の「はじき野菜」を三葉まつりで格安で販売することを提案。二大学生が、収穫から販売まで携わり、品質は変わらない『はじき野菜』の認知度を上げたい。地元の人々が、森町産の農作物を食べる機会にもなる」と発表した。また、菊地なな子さん（20 〓岩手県一関市出身）は、空き店舗が目立つ商店街について、「無理にシャッターを開けなくても集客できるイベントを開けたい」と提言。空き店舗周辺のスペースを活用したキッチンカーイベントで、「幅広い世代の人の流れと、町外の人が森町で商売を始めるきっかけになる」と話した。発表会には岡嶋康輔町長、町の商工労働観光課や農林課などの課長、森商店会の種田真也会長らが出席。岡嶋町長は「森町の課題を解決するため、さまざまな提案してもらい胸いっぱいになった。具現化できるように頑張りたい」と話していた。